

# 3年生県立芸術大学受験の仕上げ時にインタビュー

20



あれでもない、これでもない・・・  
考えれば考えるほど沼にはまる？

今年、沖縄県立芸術大学へ受験を考えて行動している3年生女子生徒へ、色々と提出が終わり一段落ついたタイミングで取材を実施！



## アドバイスをもらっている場面

画塾にも通いながら、受験に提出する絵を描いたTさん。最後の最後まで加筆修正をするため、放課後にアドバイスを貰っていました。

日本には、美術・芸術を専門に学ぶ大学（「美大」「芸大」）があり、それらは国立・公立（県立・市立）と私立に大きく分かれています。沖芸は、沖縄県那覇市にある公立の芸術系大学で、正式名称は「沖縄県立芸術大学」。略称として「沖芸」「県芸」などと呼ばれます。国公立・公立美大の中では、「5芸大」と呼ばれるラインがあり（東京藝術大学、愛知県立芸術大学、京都市立芸術大学、金沢美術工芸大学）沖芸もその中に数えられています。沖芸の場合、「地域の文化・伝統・自然」と深く結びついた教育が特徴的で、単に「美術を学ぶ」「音楽を学ぶ」というだけでなく、沖縄ならではの視点・環境を活かせる点が大きな特色です。

いやあ、ChatGPTさんは優秀ですね。沖芸についてまとめて下さいと指示をだしたら上記内容で返ってきてました。つまり何が伝えたかったかと言いますと、芸術系の大学において「簡単に合格できる大学ではない」ということは、しっかりと進路活動への意識を持つ取り組むと言うこと。そんな大学へ受験（学校型推薦）を控えているクリエイティブアーツコース3年のある生徒に、少しだけお話を伺いました。

質問「受験を実際にしてみて、後輩へ伝えておきたいことはありますか？」

回答「3年生から目指すとなると、遅いような気がした。私はずっと描き続けましたし、画塾にも通っているからギリギリなるかも知れない。小論文は沢山進路室に通つたし、沢山アドバイスを受けて何度も練り直した。それでも実際、上手くいっているか分からぬ時もあつた。夜遅くまで試験対策をして、それでも受かるかまだ分からぬ。受験をするなら、「本気」で挑んでほしい。」

「作品制作もしながら、進路活動・・・。分かつてはいたけど、厳しそうる」